

# 美馬市 D X 推進計画

策定： 令和 5 年 3 月

改訂： 令和 6 年 3 月

徳島県美馬市

# 目次

- 1 背景と目的
- 2 計画の位置付けと期間
  - (1) 計画の位置づけ
  - (2) 計画期間
- 3 本市におけるDXの進め方
- 4 DX推進の基本的方針と5つの重点施策
  - (1) DX推進の基本的方針
  - (2) 5つの重点施策
- 5 個別施策
- 6 推進体制
- 7 改訂履歴

# 1 背景と目的

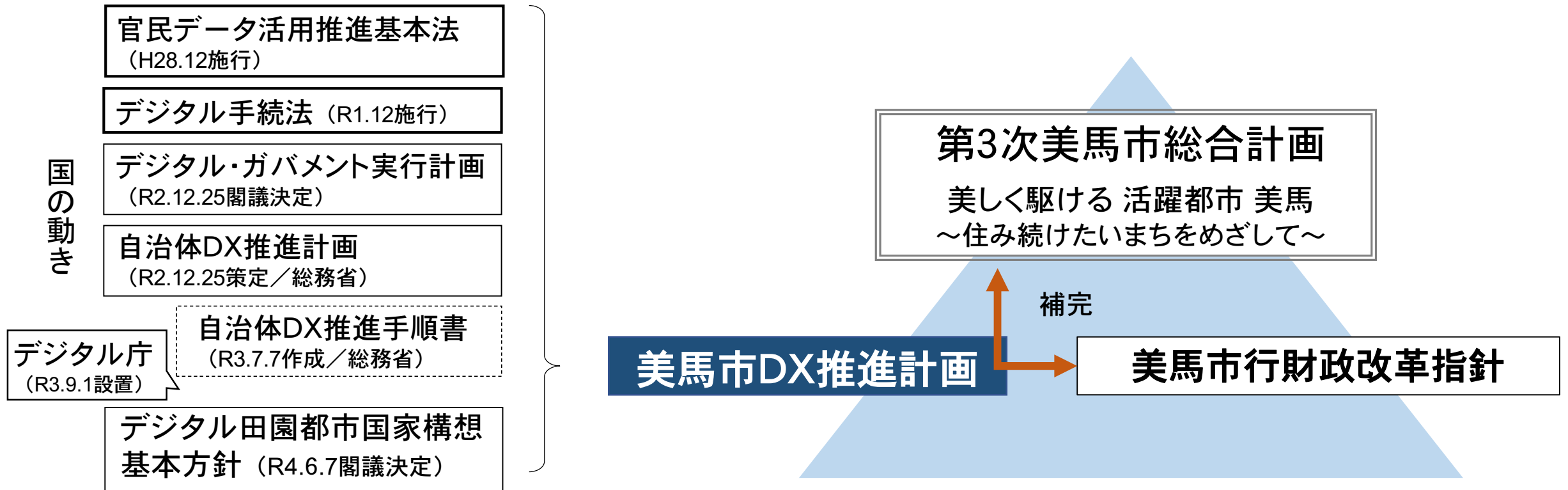
---

- 近年、スマートフォンやタブレット等の情報通信機器の普及に伴い、デジタル技術の活用が急速に進展し、情報通信技術（ICT）は、市民生活や企業活動に欠かせないツールとして大きな役割を担っている。
- 国は、「全国どこでも誰もが便利で快適に暮らせる社会」を目指して、国全体のデジタル化を主導する「デジタル庁」を令和3年9月に設置し、さらに「デジタル田園都市国家構想基本方針」を令和4年6月に閣議決定した。
- その際に重要な概念は、「デジタル化を手段として変革を進めること」（DX：デジタル・トランスフォーメーション）である。単なる新技術の導入ではなく、それに合わせて制度や政策、組織のあり方等を変革していくことが求められている。
- DXとは、「ICTの浸透が人々の生活をあらゆる面でよりよい方向に変化させること」（※）とされている。  
※ウメオ大学（スウェーデン）のエリック・ストルターマン教授が2004年（平成16年）に提唱
- そこで、①市民生活の利便性向上を図り、②効率化により生み出した人的・財政的資源を新たな行政課題への対応や市民サービスの向上に充てるとともに、③市が保有するデータを市民と共有することで、市民の市政への参画を促進することをめざして、本市のDXを推進することとし、国の「自治体DX推進計画」に基づく各施策と歩調を合わせ、本市のDX関連施策を着実に推進するため、本計画を策定する。

## 2 計画の位置づけと期間

### (1) 計画の位置づけ

本計画は、「第3次美馬市総合計画に掲げた『将来像』をDXという手段で実現する」という観点で、第3次総合計画を補完するものと位置づける。なお、「美馬市行財政改革指針」（平成28年3月策定）については、本計画と整合的なものとなるよう必要に応じて見直しを行うものとする。



### (2) 計画期間

令和5年4月～令和8年3月

(国の「自治体DX推進計画」に終期を合わせる。)

### 3 本市におけるDXの進め方

本市では、DXを単なる新技術の導入としてではなく、制度や政策、組織のあり方などの変革につなげることを重視する。このため、下図のとおり、**デジタイゼーション→デジタルイゼーション→DX**と3つの段階を経ながらDXを推進する。

#### DXの進め方<イメージ>

	デジタイゼーション	デジタルイゼーション	DX
内容	ICTツールの活用 〔業務の一部をアナログからデジタルへ〕	業務プロセス全体のデジタル化 〔新たな行動様式〕	あらゆる面で市民生活 がよい方向に変化
(例) 窓口 受付	<ul style="list-style-type: none"> <li>市ホームページの手続きガイドに従ってオンラインによる届出を可能とする（「書かない窓口」の導入）</li> <li>市役所での在庁時間の短縮</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「書かない窓口」の拡大とマイナンバーカード活用によるオンライン申請への転換</li> <li>厳格な本人確認により、安全かつ確実に手続きが完結</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>必要な市民サービスが、必要な時期に、スマートフォン等へプッシュ型で案内</li> </ul>

# 4 DX推進の基本的方針と5つの重点施策

## (1) DX推進の基本的方針

### (1) 市民の利便性を向上させる

デジタル使えない人がいるからやらない → ×

### (2) 誰も取り残さない、人に優しいデジタル化

全ての市民にDXのメリットを享受いただけるよう取り組む。

### (3) 国・県の取組と歩調を合わせ、二重投資を極力避ける

例：基幹業務システムの標準化・共通化

### (4) 過度な投資を行わずスモールスタート

美馬市の身の丈に合ったデジタル化を進める。

例) 現役世代を対象とした、件数や手数(てかず)の多い手続きからデジタル化を進め、成果を見ながら徐々に拡大する。

### (5) 市役所と市民のデータ共有による価値創造をめざす

令和3年度にリニューアルしたホームページを活用して、オープンデータ化に取り組む。

## (2) 5つの重点施策

① マイナンバーカードの普及促進と行政手続きのスマート化

② 庁内情報システムの最適化と市役所におけるDX推進

③ 官民データ活用と地域社会におけるDX推進

④ デジタルデバイドの解消

⑤ デジタル専門人材の活用と育成

# 5 個別施策 ① マイナンバーカードの普及促進と行政手続きのスマート化

## 1. 施策名

### スマート申請・窓口システムの導入と拡張

## 2. 施策概要

市の行政手続きについて、来庁（または郵送）により紙媒体で申請する手続きがほとんどである。このため、市民には来庁や郵送の負担が、職員には窓口対応や入力業務等の負担が発生している。これらの負担を軽減するため、「スマート申請・窓口システム」を構築し、簡易な行政手続きについてオンラインによる申請が可能となるようシステムを構築する。⇒ 手続きの対象者層や頻度等を考慮し、スモールスタートとする。令和5年度に公的個人認証機能（xIDと連携）を追加。

## 3. 数値目標

利用者のうち利便性が高いと感じた人の割合 ※交付金申請計画に基づく数値

令和4年 75% 令和5年 80% 令和6年 85% 令和7年 90% (単位：千円)

## 4. 事業費/工程

年 度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
事業費	5,675	3,388	1,411	1,298
うち一般財源	2,838	1,892	1,411	1,298
うち補助金等	2,837	1,496	0	0
工 程	システム構築	公的個人認証機能追加	SmartPOST導入	システム稼働（対象手続きの拡充。検診予約やアンケート等の簡易的な手続きはLoGoフォームを利用）

## 5 個別施策 ① マイナンバーカードの普及促進と行政手続きのスマート化

### 1. 施策名 遠隔相談窓口システムの導入と活用

### 2. 施策概要

中山間地域の多い本市では、本庁と3つの市民サービスセンターの窓口があるが、複雑化・多様化する市民からの相談等については本庁で対応せざるを得ないものが多い。そこで、本庁と市民サービスセンターをオンラインで相互接続する「遠隔相談窓口システム」を構築し、遠隔での相談やリモートでの手続きを行う。⇒「スマート申請・窓口システム」と連携し、市役所に出向かない手続きを拡大する。

### 3. 数値目標

利用者のうち利便性が高いと感じた人の割合 ※交付金申請計画に基づく数値  
 令和4年 70% 令和5年 80% 令和6年 90%

(単位：千円)

### 4. 事業費/工程

年 度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
事業費	10,802	216	216	216
うち一般財源	5,401	216	216	216
うち補助金等	5,401	0	0	0
工 程				



## 5 個別施策 ② 庁内情報システムの最適化と市役所におけるDX推進

### 1. 施策名

### 基幹業務システムの標準化・共通化対応

### 2. 施策概要

国の「自治体DX推進計画」における重点取組課題の一つである「基幹業務システムの標準化・共通化」に対応し、住民記録や各種税、国民健康保険、介護保険、健康管理、児童手当等といった基幹系業務20手続きを政府と地方自治体が共同利用する共通クラウド基盤「ガバメントクラウド」に移行⇒ 現行システムと国の標準化・共通化仕様書との比較からスタートする。

### 3. 数値目標

標準準拠システム移行進捗率

令和4年:10% 令和5年:40% 令和6年:70% 令和7年:100%

(単位：千円)

### 4. 事業費/工程

年 度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
事業費	0	3,645	112,855	事業費未定
うち一般財源	0	0	109,210	
うち補助金等	0	3,645	3,645	
工 程	標準化・共通化仕様書発出	Fit & Gap 分析	現行システムベンダーに提案依頼するなどガバメントクラウドへの移行を準備	

## 5 個別施策 ② 庁内情報システムの最適化と市役所におけるDX推進

### 1. 施策名 LoGoチャットの活用

### 2. 施策概要

LGWANに接続した情報系パソコンとスマホで利用できるビジネスチャットツール「LoGoチャット」を活用し、職員間の情報共有や意思決定の迅速化を図る。⇒ 利用可能な業務、場面（災害発生時の現場対応や選挙時の投票者数集計の連絡等）を提案し、利用者を拡大する。

### 3. 数値目標

令和7年度末のLoGoチャット利用者数 240人（消防吏員、保育士等を除く。）

（単位：千円）

### 4. 事業費/工程

年 度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
事業費	0	951	1,056	1,056
うち一般財源	0	951	1,056	1,056
うち補助金等	0	0	0	0
工 程	<div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-right: 10px;">試行期間による運用</div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; flex-grow: 1;">災害発生時の現場対応や選挙時の投票者数集計等で利用を拡大</div> </div>			

## 5 個別施策 ② 庁内情報システムの最適化と市役所におけるDX推進

### 1. 施策名

#### AI議事録作成システムの導入と活用

### 2. 施策概要

議事録の作成が必要な会議において、現状では会議に参加しながらメモを取ったり、ICレコーダーで録音した内容を書き起こすことに手間がかかる等といった事由から、不十分な議事録になる可能性が高い。クラウドを利用した「AI議事録作成システム」を導入し、録音した内容を自動でテキスト化し業務効率化を図る。⇒まずは職員のみで構成される会議から使用し、外部委員から構成される会議へと展開していく。

### 3. 数値目標

令和7年度末のAI議事録作成会議数 360件

(単位：千円)

### 4. 事業費/工程

年 度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
事業費	0	1,446	1,056	1,056
うち一般財源	0	1,446	1,056	1,056
うち補助金等	0	0	0	0
工 程		システム構築と試行運用	議事の重要度による適切な議事録化方法について整理する。	

## 5 個別施策 ② 庁内情報システムの最適化と市役所におけるDX推進

### 1. 施策名

総合防災情報システムの導入（令和6年度から実施）

### 2. 施策概要

現在、災害発生時の情報は危機管理課が電話で聞き取り、ホワイトボードや地図に書き込んで集約していますが、大規模災害の場合には対応できません。そこで総合防災情報システムを導入し、災害を含む危機事象の発生時に、災害対策本部の各班等が収集した情報を関係職員がリアルタイムで共有し、迅速・適切な対処方針の決定につなげる。

### 3. 数値目標

対象職員に向けたシステム操作説明会を年1回実施。台風後の災害被害調査に当たる職員は本システムにより報告を行う。

（単位：千円）

### 4. 事業費/工程

年 度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
事業費			22,495	1,760
うち一般財源			2,595	1,760
うち補助金等			19,900	0
工 程			システム構築	事務のデジタル化

## 5 個別施策 ③ 官民データ活用と地域社会におけるDX推進

### 1. 施策名 消防団支援アプリの導入と活用

### 2. 施策概要

消防団員や消防団事務局職員等のスマホとパソコンで利用できる「消防団支援アプリ」を導入し、消防団員への現場情報（住所、水利、状況）の速やかな伝達、消防団員が入手した災害状況、現場情報の共有により、消防団の災害対応力を強化する。  
⇒消防団行事、団の車両・資機材管理等の共有、出動報告書の自動作成により事務の効率化も図る。

### 3. 数値目標

令和7年度末の支援アプリ登録率 90%  
(美馬市消防団、美馬西部消防組合消防団(美馬町))

(単位：千円)

### 4. 事業費/工程

年 度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
事業費	0	2,329	2,755	2,755
うち一般財源	0	0	2,755	2,755
うち補助金等	0	2,329	0	0
工 程		支援アプリの 導入と研修・ 運用開始	消防団の災害対応力強化 事務処理の効率化	

## 5 個別施策 ③ 官民データ活用と地域社会におけるDX推進

### 1. 施策名

### 避難所備蓄資機材等のデータベース化

### 2. 施策概要

避難所に備蓄している資器材等の情報を「データベース化」し、ホームページに公開する。公助として避難所備蓄がどれだけあるかを示し、市民が閲覧することで「備蓄では足りない食糧・調理器具・衣類等」について共有し、災害への備えや防災意識の向上を図る。

### 3. 数値目標

令和7年度末の市ホームページの該当ページ閲覧数 300回／年

(単位：千円)

### 4. 事業費/工程

年 度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
事業費	0	0	0	他の数値について データベース化の 必要あれば追加
うち一般財源	0	0	0	
うち補助金等	0	0	0	
工 程	備蓄資器材の 情報をホーム ページで公開	データベースの意図を明確にした上で周知。		

## 5 個別施策 ③ 官民データ活用と地域社会におけるDX推進

### 1. 施策名

デジタル地域通貨「MIMACA」の活用

### 2. 施策概要

市独自のデジタル地域通貨「MIMACA」による地域経済の好循環を創出する。マイナンバーカード取得者へのポイント付与を起点とし、「MIMACA」の利用拡大を図るため、健康増進等の行動を促す動機付けとなるような行政ポイントの付与も行う。

### 3. 数値目標

利用者のうち利便性が高いと感じた人の割合 ※交付金申請計画に基づく数値  
 令和4年 80% 令和5年 85% 令和6年 90%

(単位：千円)

### 4. 事業費/工程

年 度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
事業費	39,800	14,362	16,491	16,491
うち一般財源	4,700	14,362	16,491	16,491
うち補助金等	35,100	0	0	0
工 程				

## 5 個別施策 ③ 官民データ活用と地域社会におけるDX推進

### 1. 施策名

### 高齢者見守りサービスの拡充

### 2. 施策概要

人感センサーによる高齢者の見守りは、コールセンターで異常を感知し近隣の協力員へ電話連絡で現地に駆けつけるというもので、協力員の確保が課題となっている。サーバをクラウド化し、インターネット経由で家族がセンサーの情報をいつでも閲覧できる「高齢者見守りサービス」により、協力員不足に対応する。

### 3. 数値目標

令和6年度末の利用者満足度95% ※交付金申請計画に基づく数値  
(利用者やその家族を対象としたアンケート)

(単位：千円)

### 4. 事業費/工程

年 度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
事業費	14,610	6,101	5,848	5,848
うち一般財源	7,305	6,101	5,848	5,848
うち補助金等	7,305	0	0	0
工 程	<div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-right: 20px;">システム構築</div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; flex-grow: 1;">システム稼働 (アンケート等により改善点があれば対応を検討)</div> </div>			



## 5 個別施策 ③ 官民データ活用と地域社会におけるDX推進

### 1. 施策名 美馬アグリワーケーション施設の運営

2. 施策概要 IoTを活用する水耕栽培機器を備え、スマート農業を体験できる「美馬アグリワーケーション施設」を整備する。そこで、今後蓄積されるデータを活用することで、スマート農業に取り組む新規就農者（起業者）の支援、更に地域の耕作放棄地や休耕地の活用及び特産品の開発につなげる。

3. 数値目標 令和7年度末の新規就農者数15人  
 ※主に市外の方をターゲット。 ※施設の利用有無に限定しない

(単位：千円)

### 4. 事業費/工程

年 度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
事業費	54,072	4,772	5,334	3,558
うち一般財源	33,687	4,639	5,201	3,425
うち補助金等	20,385	133	133	133
工 程	美馬アグリワーケーション施設整備・運用開始	隣接する「ワークスペース」運用開始予定	リーダー農業経営者育成講座、コンテンツ情報発信	継続的な周知

## 5 個別施策 ③ 官民データ活用と地域社会におけるDX推進

### 1. 施策名

### GIGAスクール構想の推進

### 2. 施策概要

「GIGAスクール構想」において整備された1人1台端末の効果的・効率的な活用に向け、クラウド型学習教材やオンラインでの学習支援ソフトを活用する。またネットワーク関係機器等の年度更新を行うことにより、学習指導要領に沿った育成に向け、教材・教具や学習ツールの1つとしてICTを積極的に活用する環境整備に取り組む。

### 3. 数値目標

令和7年度末において中学校におけるクラウド型学習教材の月次アクティブ率 平均70%  
 ※8月の夏休み期間を除く。 ※小学校については機器に慣れ親しむ期間とする。

(単位：千円)

### 4. 事業費/工程

年 度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
事業費	104,390	101,258	153,289	112,212
うち一般財源	104,390	101,258	153,289	112,212
うち補助金等	0	0	0	0
工 程	運 用 更 新	小学校端末更新	小・中学校端末更新	小学校・中学校における各教室用等のパソコンのほか、タブレットの安定した利用環境の整備を行う。

## 5 個別施策 ③ 官民データ活用と地域社会におけるDX推進

1. 施策名 道の駅キャッシュレス決済導入による市民サービス向上（令和6年度から実施）
2. 施策概要 急速に進むデジタル化の中、日常生活において現金を主な決済手段としない住民への利便性の向上を目的として、キャッシュレス決済に対応するPOSレジ・セミセルフレジを導入することで、レジ待ちの時間を減らし、回転率の向上を図る。

3. 数値目標 アンケートによる利用者満足度（5段階評価） ※交付金申請計画に基づく数値  
令和6年度：3.0ポイント 令和7年度：3.2ポイント

（単位：千円）

### 4. 事業費/工程

年 度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
事業費			28,319	682
うち一般財源			14,160	682
うち補助金等			14,159	0
工 程			システム構築	事務のデジタル化

## 5 個別施策 ③ 官民データ活用と地域社会におけるDX推進

### 1. 施策名

健康ポイントによる運動習慣の更なる定着（令和6年度から実施）

### 2. 施策概要

徳島ヴォルティスのコーチ指導による運動プログラムを実施し「週2回、30分以上の運動習慣」を促して効果を上げてきた「美馬市版SIBヴォルティスコンディショニングプログラム」が令和5年度に終了することから、以降も幅広い市民の運動習慣の定着化を図るべく、歩数と体組成の計測にインセンティブを与える「健康ポイント」を既存のデジタル地域通貨と連携させて導入する。

### 3. 数値目標

健康に無関心な参加者のうち健康に関心を持つようになった人の割合（アンケート）  
 令和6年度：85% 令和7年度：90% ※交付金申請計画に基づく数値

（単位：千円）

### 4. 事業費/工程

年 度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
事業費			13,600	3,520
うち一般財源			7,950	3,520
うち補助金等			5,650	0
工 程			システム構築	ウォーキングイベント等実施

## 5 個別施策 ③ 官民データ活用と地域社会におけるDX推進

### 1. 施策名

境界確定情報のデジタル化による事務効率化（令和6年度から実施）

### 2. 施策概要

紙媒体のみで保存していた境界立会情報や境界確定情報等を既存の地籍管理システムに同期させることにより、申請者(市民及び事業者)からの境界等の土地情報についての問い合わせに対して、検索機能を用いた迅速な回答を可能とし、申請者の来庁回数及び待ち時間を削減することにより、申請者の利便性の向上及び地権者間のトラブル等の発生を未然に防ぐ。

### 3. 数値目標

申請者の来庁回数・待ち時間の短縮 ※交付金申請計画に基づく数値

令和6年度：10分 令和7年度：7分

※計画時点の所要時間は3日程度、来庁回数は最低2回

(単位：千円)

### 4. 事業費/工程

年 度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
事業費			4,774	0
うち一般財源			2,387	0
うち補助金等			2,387	0
工 程			システム構築	事務のデジタル化

## 5 個別施策 ③ 官民データ活用と地域社会におけるDX推進

### 1. 施策名

認定こども園ICT化による保育の質向上（令和6年度から実施）

### 2. 施策概要

認定こども園に「保育所業務支援システム」及び必要な機器を導入し、書類作成事務等をデジタル化することによって得られる利便性及び限られた人材（保育教諭等）の業務時間短縮による子どもに関わる時間の増加により、きめ細やかな教育・保育を行い、保育の質の向上、子どもの安全面等に対する保護者の安心感の増加につなげる。

### 3. 数値目標

保育所業務支援システムの保護者満足度（5段階評価） ※交付金申請計画に基づく数値  
 令和6年度：3.0ポイント 令和7年度：3.3ポイント

（単位：千円）

### 4. 事業費/工程

年 度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
事業費			9,840	2,112
うち一般財源			4,920	2,112
うち補助金等			4,920	0
工 程			システム構築	事務のデジタル化

## 5 個別施策 ③ 官民データ活用と地域社会におけるDX推進

1. 施策名 **デマンドバス配車システムの改修等による部活動移動支援（令和6年度から実施）**

2. 施策概要 部活動の合同チーム化が進む本市中学校では、学校間の送迎は保護者が行うケースが多く、送迎ができない生徒については部活動を断念せざるを得ない状況がある。そこで既存デマンドバス配車システムを改修し「部活動の開始・終了や生徒の乗降情報等を共有できる機能」を追加することで、希望する部活動に打ち込むことができる交通基盤を確立する。

3. 数値目標 アンケートによる生徒または保護者利用満足度（5段階評価）  
令和6年度：3.0ポイント 令和7年度：3.2ポイント

（単位：千円）

4. 事業費/工程

年 度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
事業費			19,400	15,942
うち一般財源			4,800	15,942
うち補助金等			14,600	0
工 程			システム構築	ICTを活用した送迎の開始

## 5 個別施策 ③ 官民データ活用と地域社会におけるDX推進

1. 施策名 **新しい防災行政情報発信システムによる地域情報のデジタル化（令和6年度から実施）**

2. 施策概要 防災情報や行政情報等を音声によって市民へ発信しているが、現行の音声告知放送端末機が令和7年3月末に製造販売中止となることから、新たな情報の発信手段としてスマホアプリを構築する。また、高齢者世帯等でスマホを利用できない方には、事前登録された固定電話への電話やガラケーにメールを配信するという複合的な仕組みを構築する。

3. 数値目標 令和7年度において利用者のうち利便性が高いと感じた人の割合 80%  
(アンケート集計)

4. 事業費/工程

(単位：千円)

年 度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
事業費			72,459	13,733
うち一般財源			4,959	13,733
うち補助金等			67,500	0
工 程			システム構築	新システムの運用・周知



## 5 個別施策 ④ デジタルデバイドの解消

### 1. 施策名 スマホ教室の開催

2. 施策概要 国が提供するeラーニング受講後に、公共施設を活用した市主催による「スマホ教室」を開催し、デジタルデバイス解消の一助とする。⇒ スマホの電源の入れ方や電話のかけ方から始め、SNSの活用等といったカリキュラムも盛り込む。

3. 数値目標 令和5～7年度のスマホ教室累計参加者数 合計200人

(単位：千円)

### 4. 事業費/工程

年 度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
事業費	0	1,307	4,574	4,574
うち一般財源	0	1,307	4,574	4,574
うち補助金等	0	0	0	0
工 程	e-とくしま推進 財団によるス マホ教室開催	ミライズで 市主催のスマホ 教室開催	より地域に入っていく教室開催を目指す	

## 5 個別施策 ⑤ デジタル専門人材の活用と育成

1. 施策名 DX推進アドバイザーによるDX課題解消に向けた支援

2. 施策概要 地域のDXに取り組む市町村を人材面から支援する国のデジタル専門人材派遣受入制度を活用し、「DX推進アドバイザー」2人を外部から招聘⇒職員研修やアンケート等を実施し、課題の掘り起こしと解決に向けた助言を行う。

3. 数値目標 令和7年度末のDX化により課題解消された業務数（10業務）

（単位：千円）

4. 事業費/工程

年 度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
事業費	3,791	4,247	6,165	4,141
うち一般財源	1,680	2,007	3,540	1,874
うち特別交付税	2,111	2,267	2,625	2,267
工 程	基本研修 （集合研修） の開催	ツール研修 （個別研修） の開催	DX人材育成に向けた個別研修を 開催するとともに、施策実現に向 けた助言等を行う	

## 5 個別施策 ⑤ デジタル専門人材の活用と育成

### 1. 施策名 DX推進リーダーの育成

2. 施策概要 各課内における課題を掘り起こし、データ活用等に基づいた業務改善や企画立案に取り組む「DX推進リーダー」を育成⇒DX推進アドバイザーを講師とする個別研修やe-ラーニング等を受講し、一般行政事務を所管する各課に1名ずつの配置をめざす。

3. 数値目標 令和7年度末までに一般行政事務各課（33課）に1名ずつDX推進リーダーを配置  
（DX推進リーダー＝DXアドバイザーやDX推進課の個別研修を受講した者）

（単位：千円）

### 4. 事業費/工程

年 度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
事業費	0	0	1,642	必要に応じて研修を追加
うち一般財源	0	0	1,642	
うち補助金等	0	0	0	
工 程	DXアドバイザーによる基本研修を受講	DXアドバイザーによる個別研修を受講	RPA・ローコードツールを用いた研修等	

## 6 推進体制

---

市長を本部長として令和4年4月に設置した「美馬市デジタル・トランスフォーメーション（DX）推進本部」において、本市における全庁的なDX推進のロードマップである本計画に基づく施策の進捗管理と評価を行い、DX推進の司令塔としての役割を果たす。

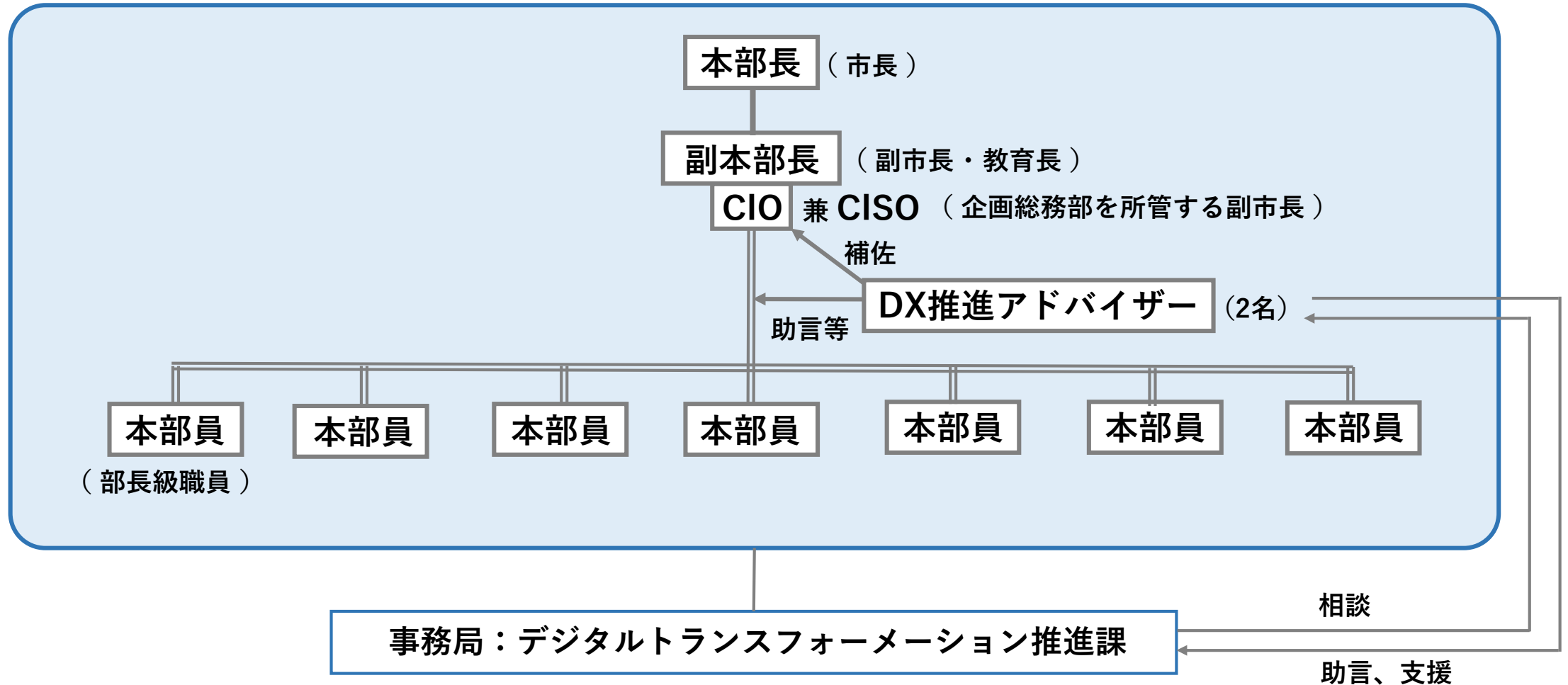
「推進本部」は、市長、副市長、教育長及び部長級職員をもって構成し、副市長及び教育長を副本部長、部長級職員を本部員で構成する。なお、企画総務部を所管する副市長については、「最高情報統括責任者（CIO）」及び「最高情報セキュリティ責任者（CISO）」とする。（cf.美馬市セキュリティポリシー）

また、外部人材（2名）である「DX推進アドバイザー」（特別職非常勤）はCIOを補佐するとともに、その専門的知見や実務経験を生かして、職員に対する技術的助言や人材の育成を担う。

「美馬市DX推進本部」の事務局は、デジタルトランスフォーメーション推進課が担う。

## 6 推進体制

### 美馬市デジタル・トランスフォーメーション推進本部



# 7 改訂履歴

改訂年度	改訂内容
令和5年度	<p>以下の7事業を追加。（令和5年度補正予算デジタル田園都市国家構想交付金交付対象見込み事業等）</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・総合防災情報システムの導入</li><li>・道の駅キャッシュレス決済導入による市民サービス向上</li><li>・健康ポイントによる運動習慣の更なる定着</li><li>・境界確定情報のデジタル化による事務効率化</li><li>・認定こども園ICT化による保育の質向上</li><li>・デマンドバス配車システムの改修等による部活動移動支援</li><li>・新しい防災行政情報発信システムによる地域情報のデジタル化</li></ul>
	<p>以下の施策について、より適切な数値目標に変更。また、数値目標集計方法の明記や概要説明の修正、事業費の修正等の変更。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・スマート申請・窓口システムの導入と拡張</li><li>・遠隔相談窓口システムの導入と活用</li><li>・基幹業務システムの標準化・共通化対応</li><li>・LoGoチャットの活用</li><li>・AI議事録作成システムの導入と活用</li><li>・消防団支援アプリの導入と活用</li><li>・避難所備蓄資機材等のデータベース化</li><li>・デジタル地域通貨「MIMACA」の活用</li><li>・高齢者見守りサービスの拡充</li><li>・美馬アグリワーケーション施設の運営</li><li>・GIGAスクール構想の推進</li><li>・スマホ教室の開催</li><li>・DX推進アドバイザーによるDX課題解消に向けた支援</li><li>・DX推進リーダーの育成</li></ul>
	全個別施策について事業費の内訳表示形式を修正。
	改訂履歴の追加。